

日本学術会議政治学委員会国際政治分科会（第25期・第2回）議事録

日時：2021年7月29日（木）16：00～18：00

開催方式：オンライン

出席者（敬称省略）：〈委員長〉山田高敬、〈副委員長〉亀山康子、鈴木基史、大芝亮、古城佳子、竹中千春、都丸潤子、羽場久美子

配布資料

1. 日本学術会議政治学委員会国際政治分科会 25期第1回議事録
2. 日本学術会議国際政治分科会シンポジウム企画案
「感染症による生存への脅威と向き合う国際政治—科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯（仮題）」（山田委員長）
3. 国際政治分科会に関わるシンポジウム提案「専門家は国際問題の解決にどのように貢献できるのか」（鈴木委員）

〈議事〉

1. 協議事項

- （1）第1回分科会議事録[資料1]について
 - ・ 確認の上、了承された。
- （2）国際政治分科会シンポジウム企画案「感染症による生存への脅威と向き合う国際政治」について
 - ・ 前回の議事内容とその後の委員からの意見を踏まえ、山田委員長から[資料2]に基づき、登壇者候補と報告分担案を含むより詳細な企画案が示され、協議が行われた。
 - ・ 国際政治分科会としての特色を出しつつ提言ができるよう、焦点を絞る形で、多様な政治体制下にあるアジア諸国、長い感染症対策の歴史を持ちながら感染爆発を経験した欧米など各国の対応を中心に、専門家と政治の関係、国際制度の脆弱性や、国際衛生規範と知的所有権との関係など、さまざまなジレンマや課題を洗い出すパネル構成とする方針が確認された。
 - ・ パネリストの依頼手順や開催方法も協議され、当面の感染状況を考慮して対面よりもオンライン開催を基本線として早めに学術フォーラムとして申請し、年内または年明けの開催に向けて準備を行うことも合意された。
 - ・ また、今回のシンポジウムは単発で終わらずに、例えば感染症対応にも反映された大国間の地政学的な力学や日本の位置づけなど、関連する問題を取りあ

げた続編を継続的に企画するのが望ましいという点でもおおむね認識が共有された。

(3) 国際政治分科会に関わるシンポジウム提案「専門家は国際問題の解決にどのように貢献できるのか」について

- ・ [資料3]に基づき、鈴木委員から、第25期政治学委員会の申し合わせテーマでもある「政治と専門知」についての新たなシンポジウム提案が示され、協議が行われた。現在の学術会議の数多くの提案や報告書が十分に政策に反映されない状況に鑑み、現実的な問題を議論して、『学術の動向』や編著の形で知見として残すべく、これまであまり行われなかった他の政治系分科会と連携して分野横断的なシンポジウムを企画したいという提案が大筋で支持された。今後協議を継続してゆくことになった。

2. 報告事項

- ・ 第一部会員の鈴木委員より、前回分科会以降の任命拒否問題に関する動向、制度改革の中間報告書の政府における検討状況、提言数の調整についての学術会議内の議論の方向性について報告があり、学協会との関係について質疑応答が行われた。

3. その他

次回の会合については、後日当該分科会委員に照会することとする。

議事録作成 都丸潤子